

令和2年10月29日 創政こうふ視察報告

島根県出雲市

「出雲ドーム」について

対応： 出雲市文化スポーツ課

### 1. 出雲市の概要

人口：17万4,686人

### 2. 出雲ドーム建設の経緯と目的

(経緯) 山陰地方の気候は、雨や雪の日が多く、季節風も強い。一年を通じて天候に左右されることなく、若い人から高齢者までがスポーツやレクレーションができる施設の建設が求められてきた。

(目的) 全国の市町村レベルでは例のなかったドーム型施設を建設することとなった。出雲大社に象徴される出雲の伝統的な木造り文化を活かして、温かみのある印象を与える木造建築となった。出雲ドームは、市民のスポーツ利用だけでなく、一流のスポーツ・文化イベントを開催し、地域文化の振興と地域の活性化を図ることを大きな目的としている。

### 3. 出雲ドームの概要

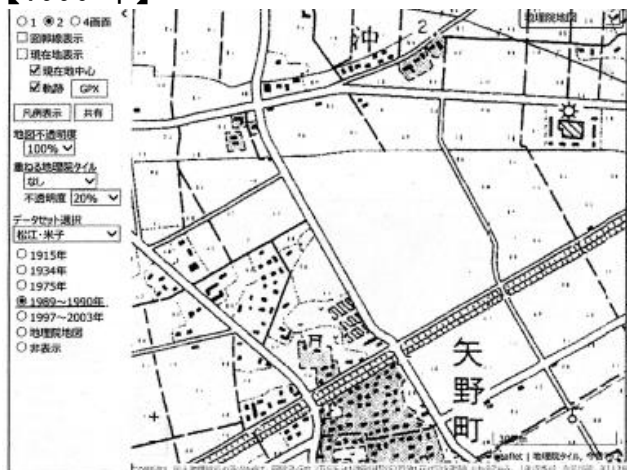
高さ 48.9m

構造材 米国から輸入した集成材 2,000本による  
木質系立体調弦アーチ構造

屋根 ガラス繊維をテフロン加工した対候性のある膜

ドームを建設するにあたって様々な意見があったため、定期的な報道発表や建設途中での見学会等の市民参加の場を作って理解を得てきた。

【1990年】



【2020年】



#### 4. 建設の概要

(1) 事業名 出雲健康公園整備プロジェクト

(2) 総事業費 68 億円

内訳

ドーム建設費 45 億 5 千万円  
 用地費 9 億 3 千 400 万円  
 造成工事費 2 億 9 千 900 万円  
 公園工事費 3 億 8 千 100 万円  
 設計管理費 2 億 6 千 700 万円  
 等

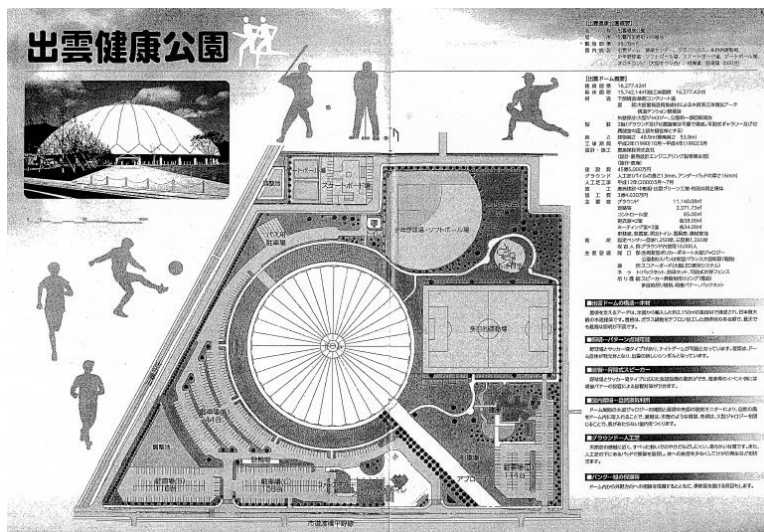
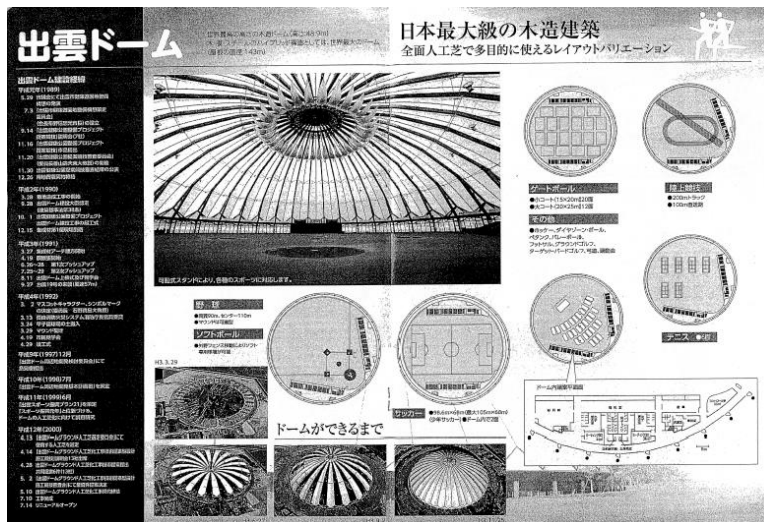
(3) 財源

地域総合整備事業債 53 億 1 千万円

一般財源 14 億 9 千万円

(4) 事業年度 平成元年度から平成 4 年度まで

※ドーム自体は平成 2 年度から 4 年度まで



## 5. 指定管理

平成18年度から指定管理制度導入

指定管理者 特定非営利活動法人出雲スポーツ振興21

指定管理機関 平成28年4月1日～令和3年3月31日（5か年）

（管理費等）

令和元年度

指定管理料 77,459,331 円

管理費 1,239,661 円

設備整備費 385,000 円

（収入等）

利用料収入 22,907,919 円※ドームのみ

利用者数 113,463 人※ドームのみ

利用率 90.3%

一日当たりの平均利用時間 9.2 時間

## 6. 出雲ドームを利用した主なイベント（令和元年度）※抜粋

4月27日 スポーツ&健康フェスティバル 3,850 人

6月8日～10日 装身具の展示会 延べ6,000 人

8月10日 地区夏祭り 2,500 人

9月7日 吹奏楽 5,000 人

9月21日、22日 全国ろうあ者体育大会 延べ400 人

10月20日 国際ロータリー2690 地区大会懇親会 1500 人

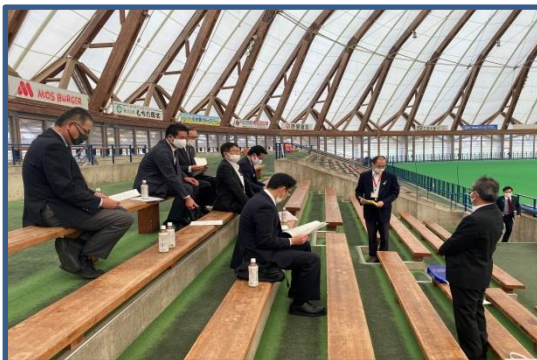
10月24日 大相撲出雲場所 3,600 人

11月2日、3日 出雲産業未来博 延べ14,000 人

11月21日、25日 SOFTJAPAN 出雲キャンプ 延べ7,000 人

（ソフトボール女子 TOP 日本代表）

1月11日 令和2年出雲市消防出初式 1,000 人



## 7. 改修工事とドームの今後の課題

### (1) 改修工事等

平成 12 年 出雲ドーム人工芝化 約 3 億 4 千万円

平成 14 年 クラブハウス 約 3 億 9 千万円

天然芝生多目的広場（サッカー場）約 2 億 6 千万円

少年野球場 約 7 千万円

スケートボード場・ゲートボード場等を新設

### (2) 老朽化による施設・設備の改修

出雲ドーム：屋根膜雨漏り対策、人工芝張替え（R2 年度予定）

### (3) 交通アクセス

公共交通機関（路線バス・電鉄）について停留場及び駅から距離があり、来場者は自家用車が大半である。大型イベントの開催や複数のイベントを開始する際には、駐車場が不足することから臨時駐車場の確保が必要となる。（現状 600 台分）

## 8. まとめ

国の助成や補助金等を活用せずに建設までにたどり着いた背景には、当時の市長や市民の想いが強くあったと想定できるが、今後の老朽化等の課題や維持管理への費用等が懸念される。今後は、防災機能も充実させたいとのことでもあったので、市民の健康増進等のスポーツ公園機能だけでなく防災等への活用も期待される場所である。

本市における建設の必要性については、出雲市での稼働率の高さを見ると大きな需要もあるので、今後のフレイル予防や本市も掲げる健康増進への大きな役割を果たすものと考えているが、慎重な議論が必要である。

